

対馬から“林業再生”を考える

——“森里海連環”思想の提案——



森林に期待される役割はますます重要性を増しています。

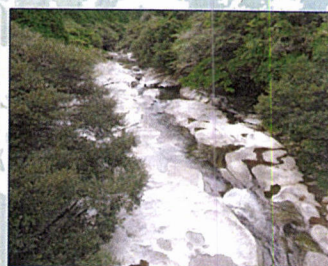
日本では、戦後に拡大造林した木が成長期にある間に、国内で使用する木材の8割を外材に頼るという体制をつくってしまい、日本の林業は長い低迷の時代が続いています。しかし近年、林野庁が「新流通・加工システム」「新生産システム」を提唱し、“林業再生”と“森林組合改革”が全国で進みつつあります。

島内のほとんどを森林が占める対馬では、かつてのブランド“対州檜（対馬ひのき）”を再び世に出すため、「日本に健全な森をつくり直す委員会」等の共催を得て、シンポジウムを開催することになりました。

対馬という“生物多様性”に富み、原生林と人工林の混在する人口3万人の島から、“林業再生”の活動が始まろうとしています。

そして、対馬の森をしっかりと再生することが、海や島の人々にどうかかわってくるのか。京都大学が提唱する「森里海連環学」のお力を借り、森と里と海のつながりもきちんと見すえていきたいと考えています。

皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



2010年1月23^(土)日 13:00～17:00

●対馬市交流センター（対馬市巖原町今屋敷）

入場
無料

基調講演
C・Wニコル氏

●主催：対馬森林組合

●共催：日本に健全な森をつくり直す委員会、“森里海連環学”実践塾
町の工務店ネット、森里海実践塾 in 対馬実行委員会

●後援：農林水産省、(社)国土緑化推進機構、(財)日本森林林業振興会 熊本支部、長崎県
対馬市、(社)長崎県林業協会、長崎新聞社、対馬新聞社
京都大学フィールド科学教育研究センター、ながさ木の家づくり推進連絡協議会

●協賛：(社)対馬林業公社、長崎県森林組合連合会、社会福祉法人 米寿会
長崎県森林組合協議会、(株)伊万里木材市場、対馬木材業組合
(財)十八銀行社会開発振興基金、対州林産株式会社、対州海運株式会社

お問い合わせは 対馬森林組合 TEL. 0920-52-2677

タイムスケジュール

2010年1月23日(土) 13:00~17:00

- 13:00 開会あいさつ 主催者
- 13:05 来賓あいさつ 山田 正彦(農林水産副大臣)
谷川 弥一(自民党農林部会林政小委員会委員長)
財部 能成(対馬市長)
- 13:15 基調講演 「サケが森をつくっていたー“森里海連環”の気づきー」
C・Wニコル(作家、京都大学フィールド研社会連携教授)
- 13:45 講演Ⅰ 「対馬の森を見てみると」
竹内 典之(京都大学名誉教授)
- 14:15 講演Ⅱ 「森林組合と林業再生へのプログラム」
梶山 恵司(内閣審議官・国家戦略室)
- 14:45 講演Ⅲ 「日本一雨と破砕帯が多い吉野で、“作業道づくり”が経営を助ける」
岡橋 清元(清光林業 第17代当主)
- 15:15 講演Ⅳ 「対州檜(対馬ヒノキ)で家をつくる」
小池 一三(町の工務店ネット代表、“森里海連環学”実践塾 塾頭)
- 15:45 (休憩)
- 15:55 パネルディスカッション
「対馬から“林業再生”を考える」
パネリスト 財部 能成(対馬市長)
根津 廣次(対馬漁業協同組合長 会長)
桐谷 安博(対馬農業協同組合 組合長)
平山 耐(輝星建設 代表取締役)
扇 次男(対馬森林組合 組合長)
進行 天野 礼子(アウトドアライター、“森里海連環学”実践塾 塾長)
- 16:55 来賓コメント 中島 浩一郎(銘建工業 代表取締役)
- 17:00 閉会あいさつ

「日本に健全な森をつくり直す委員会」

2008年7月発足。林野庁の全国7地方局管内において、委員会とシンポジウムを重ね、「21世紀を森林(もり)の時代に」していくための世論を形成することを目的に活動。各界からオブザーバーを委員会に招き、各新聞社の論説委員にも参加を要請している。俗称「養老委員会」。09年9月、提言書「石油に頼らず、森林(もり)に生かされる日本になるために」を発表した。

委員長 養老 孟司(東京大学名誉教授)
副委員長 C・Wニコル(作家)
委員 立松 和平(作家)
天野 礼子(アウトドアライター)
尾池 和夫(前・京都大学総長)
岡橋 清元(清光林業 第17代当主)
梶山 恵司(内閣審議官・国家戦略室)
川村 誠(京都大学大学院・農学研究科准教授)
白山 義久(京都大学フィールド科学教育研究センター長)
高井 洋一(ボロBCS(株) 代表)
竹内 典之(京都大学名誉教授)
田中 保(田中静材木店代表)
中島浩一郎(株)銘建工業代表)
藤森 隆郎((社)日本森林技術協会技術指導役)
真下 正樹(林業技術士森林部門)
山崎 道生((株)山崎技研代表)
湯浅 勲(京都府日吉町森林組合参事)

シンポジウム「対馬から“林業再生”を考える」



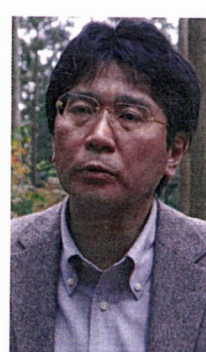
C・Wニコル

●作家、京都大学フィールド研社会連携教授、環境保護活動家
1940年、英国ウェールズ生まれ。17歳でカナダに渡る。北極地域への調査探検、エチオピアの国立公園建設などに携わる。80年、長野県に居を定め、独自に森の再生活動に取り組んでいる。95年日本国籍を取得。05年、名誉大英勲章を授与。著書多数。



竹内 典之
たけうち みちゆき

●京都大学名誉教授
1944年、京都市生まれ。京都大学農学研究科林学専攻修了、農学博士。京都大学において、各地の演習林(現・研究林)に勤務、明るく豊かな人工林づくりを目指してきた。03年、「森里海連環学」を提唱し、新設のフィールド科学教育研究センター、副センター長に就任した。



梶山 恵司
かじやま ひさし

●内閣審議官・国家戦略室
1954年生まれ。慶応大学大学院修了。外務省、富士通総研主任研究員等を経て、新政権の内閣審議官に。01年、経済同友会にて、当時の福井俊彦理事長のもと、「森林再生とバイオマスエネルギー利用促進のための21世紀グリーンプラン」を作成。近年の林業再生の理論的支柱。



岡橋 清元
おかはし きよちか

●清光林業 第17代当主
1949年、橿原市生まれ。吉野林業地の“山持ち”の子であるが、自分で道をつけることを大橋慶三郎氏より学び、作業道づくりの実績を積んだ。急斜面の伝統ある林業地で最新の山林経営を行っている。大橋氏との共著に「写真図解・作業道づくり」(全国林業普及協会)。



小池 一三
こいけ いちぞう

●町の工務店ネット代表
1946年、京都市生まれ。OMソーラー協会設立に参加、ソーラー住宅の普及に尽力。「近くの山の本で家をつくる運動」宣言を起草。「愛・地球博」にて「地球を愛する100人」に選ばれる。「森里海連環学」実践塾塾頭、(有)小池創作所代表。著書に「働く家」「いい工務店との家づくり」など。



天野 礼子
あまの れいこ

●アウトドアライター
1953年、京都市生まれ。同志社大学卒。国内外の川・湖・海を釣り歩く。近年は森の著作も。04年より「森里海連環学」普及のための活動を各地で展開。「森里海連環学」実践塾の塾長も引き受けている。著書に「林業再生」最後の挑戦(農文協)他。